

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北関東)	◎	－	－	－
	○	一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・暑いため、飲料品関係の売上が高まっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・猛暑の影響で飲料や冷たい商材が好調で、販売数が増えている。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・盛夏期のため、飲料単独購入客の増加で買上点数は前年を下回っているが、来客数は前年比104%と堅調である。加えて暑さが続くとの予報があり、観光客の利用に加えて飲料、酒、アイスなど、暑さで伸長する商品群の伸びが依然として期待できる。
	○	都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・この夏は沖縄や大阪に客が流れるとみていたが、宿泊部門は前年比125%くらいで着地し、やや良くなっている。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・客が値段をうるさく言うことが少なくなってきている。
	○	タクシー（経営者）	お客様の様子	・月の初めより動きが良かったので、前年同月比で13%の増収となっている。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・連日の猛暑の影響か商店街に人の往来が少ないと住民が話しているが、当店は冷やしメニューが好評で客足が伸びている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・諸物価が上昇するなか猛暑日が続き、来客数は依然として回復の兆しがみられない。最近、外国人経営の食品販売店が増え、外国人の往来が増えてきている。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・毎日の猛暑には皆諦めモードである。今月も値上がり、来月も値上がり、道行く人も少ない。涼しいスーパーの駐車場でも空いている。当分はこの状況が続く。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・前年を基準にした売上達成度で3か月前と比較すると2割ほどの減少となっているが、前年の売上達成度との比較では1割ほど上回っているため、景気はどちらともいえない。夏休み本番に想定より売上が伸びなかった要因として考えられるのは、大阪・関西万博、酷暑、クマなどの野生動物の出現などにより、当地が旅行先として選ばれなかったためだとみられる。また、道路や駐車場事情等、構造的な問題で、多くの観光客を受け入れられないためかとみている。
	□	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・米問題や原材料価格高騰による値上げが顕著だった5～6月よりは回復基調にあるものの、食品以外の購買意欲は完全には戻っていない。
	□	百貨店（店長）	販売量の動き	・売上は前年比では若干マイナスではあるものの、堅調に推移している。
	□	百貨店（店長）	販売量の動き	・物価高の影響があるものの、賃金の上昇もあり、選択的消費が進んでいるようである。本当に必要な物、欲しい物しか買わない印象もあるため、一進一退である。
	□	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・来客数は減少傾向にあるが、商品単価の引上げや購買点数の底堅さにより、売上全体としては増減なく横ばいで推移している。結果として、来客数減少の影響を値上げ効果で吸収できている。
	□	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・身体に危険な35度以上の暑い日が続いたことと、中心市街地の老舗スーパー閉店の影響により、来街者が激減している。当然、当店の来客数も減少している。
	□	家電量販店（店員）	販売量の動き	・前月は前年比では83%、今月は100%で着地する。内容的には、7月は季節商材が前年割れし、大きく足を引っ張ったが、今月は猛暑、酷暑が継続したため、エアコン中心に構成比の高い商材が好調であった。また、パソコン本体はOSサポート終了に向けた駆け込みの買換え需要が顕著に出ている。エアコンは前年比108%、パソコン本体は138%と伸びている。

□	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・この数か月、新車、中古車の販売台数が低迷して、整備などの売上が伸びている。整備売上の増加でバランスを取る状況が続いている。
□	自動車備品販売 店(経営者)	販売量の動き	・販売量は例年どおりだが、道路の交通量や人の出入りはやや少なめである。
□	住関連専門店 (仕入担当)	来客数の動き	・物価高、猛暑と消費減退の要素は何も変わらず、来客数、販売量共に前月と同様に厳しい状況である。
□	一般レストラン [居酒屋](経営者)	来客数の動き	・お盆休み明けの動きが鈍いが、予約はまずまず入っている。そこまで悪くはない流れだが、良いともいえない。
□	その他飲食[給 食・レストラ ン](総務)	単価の動き	・主力の給食部門では、新年度の4月から、多くのクライアントに取引条件、食単価等の引上げを認めてもらえたため、月次の収支は改善が図られている。ただし、暑さにより食材の葉物や人参類が品薄となり、材料費は厳しい状況が続いている。
□	旅行代理店(経 営者)	それ以外	・8月は個人旅行が中心で団体旅行の動きは鈍い。
□	旅行代理店(所 長)	来客数の動き	・猛暑の影響は否めないが、夏休みの利用はほぼ順調である。
□	旅行代理店(営 業担当)	来客数の動き	・前月同様、大阪・関西万博に客を取られているのか、前年と比べて客足が鈍い。
□	通信会社(社 員)	販売量の動き	・販売量が鈍化している。当社サービス解約申出の理由として、家計の見直しや料金の安い同業他社への切替えなどが挙げられている。高齢の顧客が多いため、物価高の影響は少なからずある。
□	通信会社(営業 担当)	単価の動き	・米価も若干の低下にとどまり、いまだ商品価格の高騰が続くなか、一般消費者には節約の状況が続いている。
□	通信会社(総務 担当)	販売量の動き	・毎月の販売数はこれまで変動があったが、今年4月以降は毎月ほぼ同数の販売が続いている。
□	通信会社(局 長)	単価の動き	・各品目の値上げ、猛暑の影響で野菜や米の価格に影響が出てきそうで単価は下がらない。
□	ゴルフ練習場 (経営者)	来客数の動き	・生活に必要な全ての物価が上昇している。
□	設計事務所(所 長)	それ以外	・価格高騰は続いており、新たな政策の見通しも立たないため、変わるようにみえない。
□	その他住宅[住 宅管理・リ フォーム](営 業)	販売量の動き	・3か月前と比べても受注金額に大差はなく横ばいである。
▲	百貨店(営業担 当)	販売量の動き	・食品は、物価高に伴い客単価は上昇傾向にあるものの、購買客数がそれ以上に減っており、総体的には、マイナスの状況が続いている。非食品部門についても従前と状況は変わらず、生活防衛意識の高まりから消費には慎重である。
▲	スーパー(総務 担当)	販売量の動き	・来客数は前年並みも客単価が低下している。
▲	衣料品専門店 (販売担当)	来客数の動き	・人の流れは幾分出てきている。
▲	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・車両受注が減少しており、車両販売の売上も減少している。
▲	乗用車販売店 (営業担当)	販売量の動き	・景気上昇が見通せないため、車の購入にお金を回せないと考えている人が多い。生活に必要な物をまず購入し、その上で余裕のある人くらいしか車のことは考えられないのではないかとみている。
▲	住関連専門店 (店長)	販売量の動き	・来客数は前年より増えているが、買上点数や客単価が低下している。来店はするものの、買物をしない客や安い物しか買わない客が多い。
▲	一般レストラン [居酒屋](経営者)	単価の動き	・来客数は変わらないものの、単価の低迷が続いている。物価上昇の影響は否めない。
▲	タクシー運転手	お客様の様子	・8月はお盆の時期で、これまでの年では多少動きがあったが、今年は例年と違いタクシーの利用客は少なく、相変わらず自家用車での送迎が多い。暑いからか歩いている人がいない。夜や深夜の人通りもない。

	▲	ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・来場者数は前年を上回っているが、単価が追い付いていない。物価が上昇しているなかでも、プレー代の値上げは厳しい。
	▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・金利上昇により住宅ローンが組みにくくなっている。また、建築費高騰のため予算をオーバーし、購入に踏み切れない客が増えており、成約に至らないことが多い。
	×	商店街（代表者）	それ以外	・猛暑の影響で客足が遠のいている。幹線道路上の橋の架け替え、区画整理の工事による店舗の移転、廃業など、良い要素がほとんどない。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・この時期はエアコンが売れるため、売上としては上がるが、やはり一時期と比べて客は値段にシビアになっている。エアコン需要が終わった時点で売上は落ちると予測している。
	×	スーパー（商品部担当）	来客数の動き	・競合店の出店により、売上、来客数の落ち込みは予想していたが、猛暑の影響や価格高騰が更に追い打ちを掛けている。
	×	乗用車販売店（経営者）	それ以外	・米国の関税政策の不安定さがあり、悪くなっている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・物価高騰に加え、暑さで外に出ない。お盆休みで帰省しても外食せずに家で過ごす人が多い。
	×	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・猛暑やゲリラ豪雨などの天候要因、物価高騰、ガソリン価格高騰、米国の関税政策、大阪・関西万博など、複合要因により来客数が減少している。
企業 動向 関連 (北関東)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・物価高騰が落ち着かず、食品中心に秋に向けて各メーカーから更なる値上げのアナウンスが発信されている状況のため、消費者の購買意欲は変わらず低迷している。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・猛暑のなか、従業員の健康を考えながらも、平常どおり稼働している。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・問合せ案件は比較的多いが、数字につながる状況ではなく、低迷が続いている。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較して受注量は変わらず減少が続いており、景気は低迷している。中国向け製品は若干増産との情報もあるが分からない。中国の不動産バブルは過ぎたのだろうか。
	□	輸送用機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・主要取引先などに特に大きな動きはなく、計画どおりに進んでいる。
	□	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・猛暑で水やお茶などの飲料、熱中症対策のファン付ベスト、エアコン、冷風機、スポットクーラー、サーキュレーター等の家電の輸送量は前年を10%程度上回っているが、その分、増車のコストも高騰し、利益は前年より少なくなっている。
	□	不動産業（管理担当）	それ以外	・猛暑による水道光熱費増加を見込んでいたが、徐々に進めてきた省エネ対策が奏功し、例年よりかなり暑く降雨も少なかったにもかかわらず、前年比微増で済んでいる。
	□	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・広告出稿は前年と変わらず、全く上昇する兆しが無い。
	□	経営コンサルタント	取引先の様子	・地域の下請等中小企業では、自動車関連など米国の関税政策の影響は今のところ意外と顕著には出ていない。それより物価上昇などによるインフレの進行のために消費が盛り上がりにつけ、生活用品の需要が伸びず、関連して物流業や物流資材関係の業況が停滞している。
	□	社会保険労務士	取引先の様子	・猛暑で外出が減少し、物価は上昇し続け、消費は低迷している。
		▲	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き

	▲	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中断が徐々に減り、2～3か月先は前年と比べて1～2割落ちて、景気はやや悪くなる。
	▲	輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の様子、競争相手の様子、受注量、販売量の動き等、全てが悪くなっている。
	×	金融業（営業担当）	それ以外	・中小企業においては人件費等のコスト上昇分を全額価格転嫁ができない状況が続いている。収益の改善がみられない。
雇用 関連 (北関東)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・公共事業関係では道路工事や河川の護岸整備などの土木工事が出ている。建設関係では、住宅の修繕や屋根の葺き替えなどの需要がある。相変わらず人手不足のなか、夏休みということもあり、行楽地に足が向かっている部分もある。学生アルバイトは小売、販売を中心に活発に動いており、飲食ではファーストフード店の求人活発さがみられている。
	□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人数に対して条件に合う求職者が不足している状況は変わらず、仕事紹介の難易度が高い状況が続いている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で増加と減少を繰り返している。
	□	学校〔専門学校〕（副校長）	採用者数の動き	・各企業の採用状況をみると、業界や企業によってかなりの隔りがあり、多くの人数の採用数確保を考えているところもあれば、全く採用を考えていない企業もある。
	▲	人材派遣会社（管理担当）	周辺企業の様子	・物価高で、商材の増産等がなくなり、製造派遣依頼が少なくなっている。
	×	*	*	*